

楽しむのせふ



奥多摩

《第66号》

令和4(2022)年

7月15日 発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



氷川溪谷

奥多摩駅から徒歩数分の場所にある「氷川溪谷」は多摩川と日原川の合流地点を中心に散策することができます。日原川は3月初旬の釣りの解禁日に合わせて整備が行われ、写真のような段々な河原になります。夏の暑い時期でも河原の近くはとても涼しく、これからの時期にぴったりの散策スポットです。今年は遊歩道整備のために7月末まで一部通行止め箇所がありますが、詳しくは奥多摩町観光案内所までお尋ねください。

～行って来たあよ～

「無人駅シリーズ」その①白丸

4月1日（金）白丸～海沢～奥多摩のコースに行ってきました。会員20名、ガイド4名。今シーズンの幕開けとなるイベントのせいか参加者は比較的多かった。

歴史を感じさせる石畳を登って、最初に訪れたのが300年以上の歴史を誇る「元栖神社」。白丸の鎮守神で祭神は猿田彦命です。例祭は8月第3日曜日。明治42（1909）年ころに復活した獅子舞も奉納されるそうです。



10分で「数馬の切通」。元禄時代に開鑿された「切通」の上に小さな祠があります。「大天狗神社」と呼ばれるこの神社は令和2（2020）年に階段と手摺が設置され、手軽に参拝が出来るようになりました。



青梅街道を横切り、大正12（1923）年に開通したとされる「数馬隧道」に到着。この隧道は白丸トンネルが開通するまで人も車も利用していました。

柿平で昼食後、海沢集落に入る。海沢ふれあい農園を過ぎると、大蛇伝説のある窪地が右手に見える。テレビドラマ「駐在刑事」水根交番モデルとなったカフェを経て海沢カタクリの里へ向かう。のどかな春の里山に色鮮やかなハナモモと桜の花が共演していた。ニリンソウ、アズマイチゲは数輪しか咲いていなかったが、カタクリの花が満開。天候にも恵まれ、参加者一同大満足の日でした。

ガイド 平塚翼次

「川苔山登山」

◇ 会員となって初めてのイベント参加 ◇

人生初のグループ登山で、ドキドキしながら参加しました。

川苔山は、百尋の滝からのコースが有名ですが、通行止めの箇所があるので、鳩ノ巣からの往復でした。20数名の参加者にガイド5名で4～5名の班で登山開始。体力が心配でしたが、ガイドのMさんや植物に詳しい方の話を伺っているうちに、どんどん標高が上がります。



雨上がりでしたので、新緑が鮮やかで「参加してよかった！」と思わず声に出しました。休憩もタイミングよく水分補給もしっかりできました。

おトイレは「お花摘みタイム」と今回初めて知りました。汗を拭き拭き標高差約1000mを上がり切った山頂は、霧に包まれてしまいました。でも、麓より淡いグリーンの新芽の中でいただいたおにぎりは格別でした。

下山のルートは、途中から別の方向へ。昭和47（1972）年に廃村になった峰集落を通過（詳しくは第61号を参照）。苔むした石垣や、山葵田の跡を見ながら歩きました。子供たちは、古里小学校棚沢分校へ通ったそうです。



そしてもう一つのお楽しみ。集落跡の山道から谷を挟んで向かい側の山の中腹に「速滝」が見えるそうです。今回は、新緑の木々が茂って見えませんでした。時期を変えて訪れたら見えるかもしれません。また次の登山が楽しみです。

会員 遠藤久子

奥多摩と秩父・北関東を結んだ ～ 山上の仙元峠 ～

奥多摩の魅力は何ととっても自然の豊かさにあります。さらにその自然と双壁をなすのが今も伝わる古い歴史が残されていることです。

中でも日原は首都圏にありながら雲取山の亜高山帯と豊かな天然の森を有し、北関東との往来をつないだ重要な古道を残しています。

奥多摩と秩父や北関東のかかわりは古くその歴史は鎌倉時代ころまで遡るのでしょうか。

登山口となる浦山大日堂は秩父三十四ヶ所霊場の十三仏霊場にあたり本尊に大日如来を祀ります。

「仙元峠」の文字が使われていますが、この仙元は「浅間」であり、富士山をご神体としたのが浅間神社です。仙元尾根は秩父や北関東と奥多摩を結ぶ生活道であると同時に富士を見るための富士山遥拝の道であったということです。このことは一般に峠の場所が尾根の稜線の鞍部にあるのに対して「仙元峠」は標高1444mの山の頂ぎに置かれています。この峠を目指した人々は、山頂の極みに達した時初めて富士の姿を目にすることができたのではないかと。そして、体力があり遠出が可能な人々はさらに日原に下り甲州を目指したのです。一方足の弱いまた遠出の余裕を持たない人は、その場で富士に別れを告げ元の道を引き返したと想像できます。



浦山大日堂 右の階段から仙元尾根に入る 2016・7・28

平成28(2016)年7月28日、修験者と富士講への憧憬から仙元峠越えを思い立ち、秩父の浦山大日堂から日原に抜けたことがあります。

8月が目前という時だけに蒸し暑く、ノリウツギの花とクマシデのホップを目にしながらい尾根道を

登っていきました。

浦山大日堂から3時間余り、突起となっている峠には画像の祠と説明板がありました。



ソバツブ山側からの仙元峠2021. 2. 9



仙元峠の説明板2016・7・28

仙元峠（天目背稜）説明板文字

昔この嶺は、秩父・多摩を結ぶ唯一の峠でした。三峯講の江戸の人達は秩父へ、上州からの富士講の信者は、この峠を越えて甲州へ向かったのです。美しいブナの原生林を抜け峠に立つと、富士山が最初に拝める峠です。村民はここに祠を祀り、峠を水の源（仙元）と呼び、祠には富士山のご神体「木花咲耶姫命」を祀りました。木花咲耶姫命は「酒の守護神」として、水の神であり下流に「仙元」の素晴らしい水を供給しているのです。

平成20年10月

彩の国みどりの基金 林野庁 埼玉森林管理事務所
秩父市・秩父山岳連盟

芋の木ドックから長沢山、酉谷山、ミツドック、ソバツブ山と徐々に標高を下げながら続く長い稜線を都県境尾根（長沢背稜）と呼びます。その中で仙元峠からヨコスズ尾根を通過して日原へ下る道を「道者道（どうしゃみち）」と呼んだといわれています。北関東から富士参り、一石山（日原鍾乳洞）・倉沢権現参りをする道者が通る道筋だったのです。現在の一杯水避難小屋の場所には荷渡し場があり秩父と奥多摩の交易場所となっていたといわれています。又、当時は小銭を持ち歩くことが困難なことから賽銭用の小銭に両替をする「両替場」という場所が滝の入峰付近に残っています。

この古道を歩いてみたいと思いませんか。

観光ガイド 増澤強

参考資料 「奥多摩、山、谷、人」山田哲也他

「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介

①氏名 ②現役時代の仕事または今現在の仕事
③出身地 ④現住所 ⑤趣味、特技 ⑥ガイド
になったきっかけは？ ⑦今までガイドをして
嬉しかったこと、良かったと思ったこと ⑧ガ
イドをする時にいつも心がけていること

- 1 ①^{おおとも まさひろみ}大友 将史 ②アウトドアショップ店員 ③
青梅市 ④青梅市 ⑤写真撮影 ⑥奥多摩で働
いていた時にガイドの会の存在を知り応募しま
した ⑦イベント終了後のお客様の笑顔を見た
時 ⑧まずは安全に、何より皆さんと楽しく歩
くこと
- 2 ①^{ふじた のりお}藤田 典夫 ②公務員（事務職） ③茨城県
④練馬区 ⑤山歩き、バドミントン ⑥現在ガ
イドをやっている方に誘われて ⑦案内して無
事に下山し、お客様の満足した笑顔を見られた
時 ⑧奥多摩の自然の豊かさと歩くことの楽し
さを共有し、とにかく安全第一にガイドする
- 3 ①^{こみね しげのり}小峰 重徳 ②信用金庫 ③奥多摩町 ④
奥多摩町 ⑤ランニング、鮎釣り、わさび作り、
そば打ち ⑥子どもころより山をかけめぐっ
ていた ⑦奥多摩はすばらしい所ですね ⑧安
心安全

寄稿者へのお礼

奥多摩観光協会に所属している「名人・達人観光ガイドの会」は平成12（2000）年4月に発足しました。「来さっせえ奥多摩」は奥多摩町への観光客誘致を目的としたPR誌として、その6年後の平成18（2006）年4月に創刊号（6ページ）が季刊誌として発行開始となりました。それ以来、その中心となって執筆や編集に大きな力を発揮していただいた方々が、橋上一彦様、富士光男様、岡崎学様、畑幸夫様です。今回、「来さっせえ奥多摩」が大きくリニューアルすることから、この機会を借りて今までの皆様方のご尽力に対し心から感謝を申し上げます。

奥多摩観光協会 観光ガイドの会・会長 原島俊二

「来さっせえ」リニューアル

今回66号から「来さっせえ奥多摩」がリニューアルします。発行以来17年目を迎えて、インターネットの利用環境が整ってきたことや紙資源の節約（SDGs）への協力等への視点から大きな改革を行います。今まで発行蓄積された過去の奥多摩関連記事はインターネット上で閲覧できますのでぜひご利用いただきたいと思います。

観光協会事務局より

この春は3年ぶりにセラピーウォークが開催され、参加者の数は少なかったものの、久しぶりの行事開催がありました。また、JR東日本様ほか近隣自治体と協力し、「観光キャラバン」を実施しました。PR場所は立川・三鷹・新宿・東京・川崎・溝の口と都内各所に渡っています。

しかし、まだ終息の見えない新型コロナウイルスの影響もあり、今年も早くコロナ禍が終息し、以前のように賑やかな花火大会が開催されることを願います。



観光キャラバン 溝の口駅の様子

主要な通行止め

- ・鳩ノ巣溪谷遊歩道（復旧未定）
- ・鷹ノ巣山 稲村岩尾根（復旧未定）
- ・川乗林道（2022年7月未まで）
- ・氷川溪谷 登計橋付近（2022年7月未まで）

次号発行予定：令和4年10月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会

来さっせえ奥多摩のバックナンバー
がカラーでご覧いただけます。

